

「駐車場のご案内」

城南島海浜公園管理事務所 (TEL3799-6403)

城南島海浜公園の駐車場が有料化されてから早くも半年が経ちました。

以前は、「駐車台数が少ない」「マナーが悪い」など利用者からの苦情がありましたが有料化に伴い、収容台数の増、利用時間の変更で、以前より駐車場利用のマナーが良くなってきました。

駐車場の利用について比較的知らない方が多いので、ここでご案内させていただきます。

利用時間は午前7時30分から午後9時までご利用になれます。料金につきましても平日は安く設定されていますので、是非、ご利用ください。ただし、休日など公園利用者が多く予想される場合、第1駐車場(管理事務所側)はキャンプ場利用者の優先駐車場となりますので、ご了承下さい。

また、第3駐車場(カモメ通り先端)60台につきましては、休日公園利用者の駐車場(1日1回500円)として運営していましたが、季節的に利用者が減少しているため、今年は10月までの運営とさせていただきます。

これからも皆様のマナーやルールを守っていただくようご協力をお願いします。

リトルターン・プロジェクトの偉業を称えて

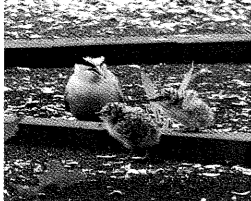
東京港野鳥公園管理事務所 (TEL3799-5031)

- ☆転がり割れる卵
- ☆汚泥のリサイクル材で卵を守れ
- ☆屋上快適営巣地
- ☆野鳥の聖域を実現

普段、聞き慣れない言葉ですが、これらは何だと思いませんか? これは、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されているコアシサシ(英名Little Tern)の群が2001年・大田区にある森ヶ崎水処理センターの屋上に住みついていることが、同区の環境調査で分かりました。

以来、行政とボランティアが協働で営巣環境整備についでの様子がなされ、その内容や結果を大々的に報じた新聞記事の見出しです。

このコアシサシの屋上での営巣は国内でも初めての出来事であり、ましては繁殖に成功した事例は未だ報告されていません。しかし営巣場所がフラットのコンクリートだったため、200以上確認された卵のほとんどが風でとばされたり、親鳥が卵を見失うなどの悲劇が生まれました。



今年は、コアシサシの子育てをひかえ、東京都が汚泥リサイクル材の提供を行い、延200人もボランティアが30トンもの貝殻まきや外敵からヒナを守る為のシェルター作りを行いました。

5月には、たくさんのコアシサシが飛来し、卵も風に飛ばされることなく多くの新しい命が誕生し、8月には、親子で飛ぶ微笑ましい姿が、東京港野鳥公園でも多数確認されました。この努力の結果、東京都議

会の愛鳥懇談会より表彰を受け、続けて国土交通大臣より東京都・大田区・リトルターンプロジェクトの三者が合同で「いきいき下水道賞」を受賞という栄誉に輝きました。東京港野鳥公園では、このプロジェクトの偉業を称え、総集編として「守ろうコアシサシ展」を企画して、展示会及び講演会を10月に実施しました。

余談ですが、このプロジェクトの成功の裏には、参加メンバーの中に当公園に所属しているグリーンボランティアや日本野鳥の会のレンジャー等、多数の支援活動があったことも忘れて下さい。また、興味のある方は下記までアクセスして下さい。

http://www001.upp.so-net.ne.jp/littletern

スラジライトとコアシサシと屋上緑化

南部スラジプラント (TEL3799-1201)

前回、森ヶ崎水処理センターの屋上における、当所で生産している下水汚泥のリサイクル製品であるスラジライトを利用した、コアシサシの営巣地の整備を紹介しました。

この整備により、今年度は親鳥が1,300羽飛来し、昨年度は5羽しか巣立ちできなかった雛が、約950羽誕生しました。

8月中旬には親鳥と同じくらいに成長し、オーストラリアなどに渡るための中継地へ無事移動しました。

今回の紹介は、南部スラジプラントの屋上を活用して、都市空間の緑を回復するため、コアシサシの営巣地に用いた汚泥のリサイクル製品であるスラジライトを用いて、屋上での緑化対策を推進する実証実験です。

芝を植栽して約1年が経過しましたが、スラジライトでも十分に育成していることが確認されています。



当所では、下水汚泥の焼却灰を都市の中でリサイクルするための施設として、軽量細粒材化施設(スラジライト)とレンガ施設が稼働し、循環型社会の手助けの一部を担い、その製品で環境対策を進めています。

埋立処分場の見学会等について

城南島工コプラント (TEL3799-0831)

城南島工コプラントを運営している(財)東京都環境整備公社は、環境問題を都民の皆さんに広く知っていただくために、東京都の中央防波堤埋立処分場見学会と環境学習会を開催しています。

見学会は、東京湾にある東京都埋立処分場を二つのコースで行なっています。

【平日コース】竹芝小型船ターミナルから船(新東京丸)に乗船して、海側から埋立処分場を一周して戻り、そこからバスに乗り換え、埋立処分場に入っていきます。処分場には、中間

処理された廃棄物を埋立る処分場と粗大ごみなどを破砕処理する施設があります。

バスに乗ったままでこれらの処分場や施設を見学した後、合同庁舎の会議室にて「ごみ問題をみんなで考えるセミナー」を行ないます。セミナー終了後、新木場駅の近くにある熱帯植物館を見学し、その後解散します。

このコースは、朝9時15分集合から午後3時半までです。

【土・日コース】新木場からバスに乗り、中央防波堤埋立処分場に入って見学した後、平日コースと同じように、熱帯植物館を見学していただいた後、解散します。

このコースは、平日コースで午前9時から12時までです。

それぞれのコースは、実施予定日が決まっていますので、当社の普及調査係(TEL3644-2108)にお問い合わせ下さい。

とくに「平日コース」は、船から埋立地を眺めたり、埋立地の見晴台から全体をパノラマのように見わたせます。少人数での見学会はあまりありませんので、社員教育も兼ねて参加していただければ有意義な1日となると思います。

動物愛護相談センターだより

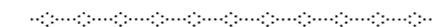
東京都動物愛護相談センター城南島支所 (TEL3790-0861)

最近、新聞やテレビなどで動物虐待のニュースをよく目にします。また、殺人事件の犯人が子供の頃に動物を虐待していた例が報告されるなど、凶悪な犯罪と動物虐待の関係が注目されています。

動物愛護相談センターでは、小学校低学年を対象に「動物教室」を実施しています。これは子供たちに、「動物は命あるもの」であることを理解させ、生命を大切にすることを育ててもらうことを目的としています。

集合住宅の多い地域では動物を飼えない家庭が多く、犬や猫に触ったことのない子供がたくさんいます。

犬と自分の心臓の音を聞き比べ、ぬいぐるみとは違う温かさを直に感じることは、子供達にとって貴重な体験だと思います。この体験が人や動物の命について考えるきっかけになればと考えています。



今年の4月から東京都の「動物の保護及び管理に関する条例」が「動物の愛護及び管理に関する条例」に変わりました。

これを受けて、当所も組織の名称を「動物愛護相談センター城南島支所」に変更しましたので、よろしくお願い致します。



編集後記

城南島タイムズは、読者の声の欄や掲示板コーナーをさらに充実させていきたいと思っています。皆様の積極的な活用をお願いいたします。

(財)東京港埠頭公社
城南島連合会新聞委員会

※この用紙は再生紙を使用しています。

城南島タイムズ



「城南島周辺で動いている公共の事業」

東京港臨海道路第2期事業

国土交通省 関東地方整備局 東京港湾工事事務所 (TEL3570-3231)

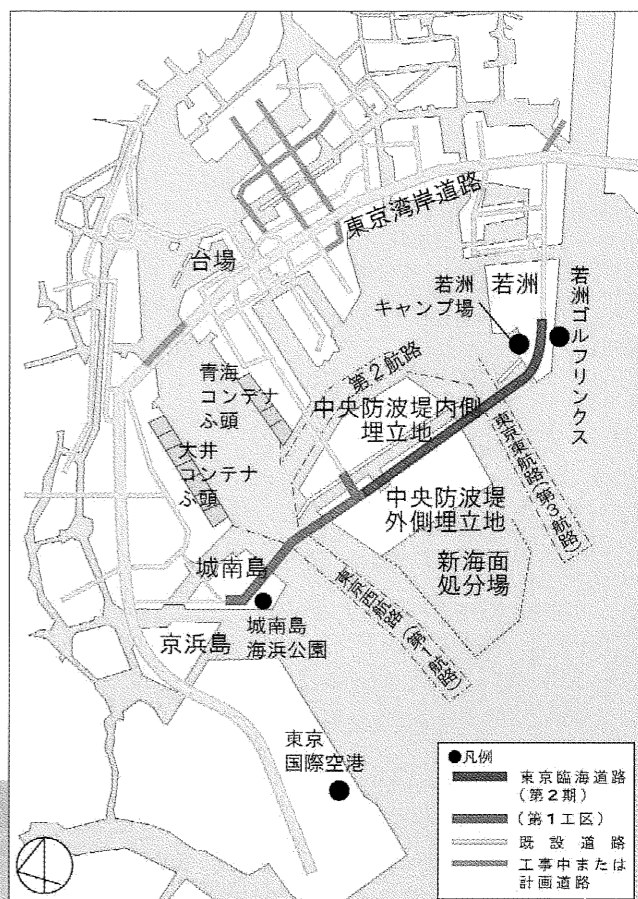
東京港湾工事事務所は、東京都内の港湾整備を担当しています。当事務所は本年4月、東京港臨海道路の第2期事業を行うため、京浜港湾工事事務所から分離し発足しました。

東京港臨海道路は、大田区城南島と江東区若洲を結ぶ全長約8kmの臨海道路です。そのうち、大田区城南島～中央防波堤外側埋立地間約3.4kmについては、東京都が平成5年度から第1期事業として沈埋トンネル方式で整備を行い、本年4月11日から使用を開始しています。

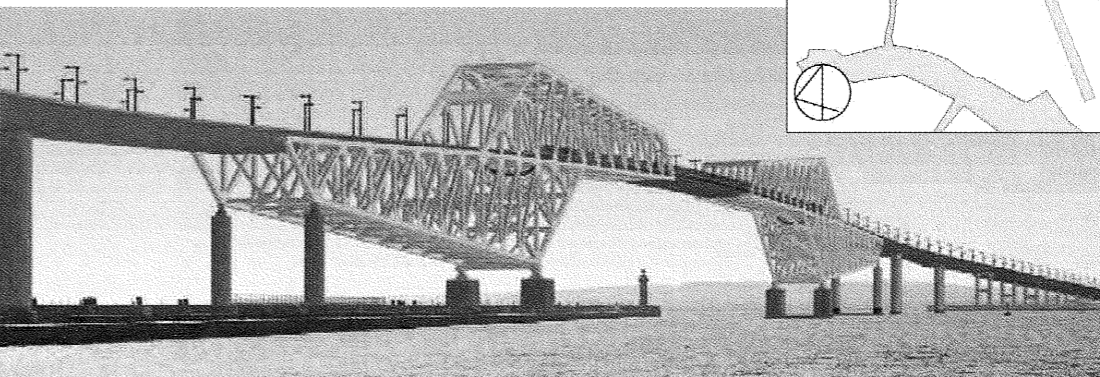
この沈埋トンネルに続く、中央防波堤外側埋立地から第3航路を越え、若洲地区までの約4.6kmが第2期事業です。

当該事業は、都市再生が叫ばれる中において、臨海部における物流の円滑化を図るとともに、都心部の交通混雑の緩和に寄与

するものです。完成目標は平成22年度の予定です。当事務所は、東京都内に初めて設置された港湾関係の国の直轄事務所です。当事務所が設置された趣旨を十分に認識し、東京港臨海道路第2期事業の推進に職員一同全力で取り組む所存です。また、これまで以上に地元との連携を強化し、東京港の整備が効率、効果的に進むようにしたいと思っていますので、皆様方のご支援・ご協力のほどよろしくお願いします。



東京港平面図



臨海道路のイメージバース(第3航路の横断橋としてトラスボックス複合橋を想定)

広域斎場の工事が始まりました

臨海部広域斎場組合事務局 (TEL5744-1123)

最近、現地(大田区東海1-3 大田スタジアムの南隣)をご覧になられた方はご存知と思いますが、広域斎場の工事が始まっています。

6月の起工式の後、地盤改良、基礎杭打ちと順調に工程を消化。本誌の発行される10月末は掘削工事も完了して、いよいよ



躯体工事が始まっている頃でしょう。

ちなみに、地盤改良のための砂は、木更津から城南島まで船で運び、現場に搬入しました。また掘削で生じた建設発生土は、(財)東京港埠頭公社の建設発生土管理事務所にて受け入れていただきました。さらに建築工事では、城南島の工場で生産したレディーミクストコンクリート(いわゆる生コン)を使用しております。城南島とは大変かわりの深い工事となっております。

建築工事は来年の9月末には完了する予

定です。その後、駐車場の舗装や植栽工事などを済ませて、平成16年の1月頃には、火葬炉8基、葬儀式場4室の(仮称)臨海部広域斎場がオープンします。これまでは「平成16年度開場」とご案内してきましたが、若干前倒しすることができそうです。



